

## 将来都市像（案）について

### 1. 現行の将来都市像にスローガンを追加

①『市民が創る めくもりと活力あふれるまち・生駒』 第5次総合計画から変更しない

①-1『～いまを超える いこまを超える～』

（理由） 「いまを超える」は、人口減少に転じる中であっても、現状維持に満足せず、いまより住みやすいまちを創っていききたい、「いこまを超える」は、生駒山を越えて大阪から移住してもらえる魅力あるまちをつくる、垣根を越えて多様な主体が連携してまちづくりに取り組みたいという思い。

①-2『～未来に駒を進めよう 創生のまち～』

（理由） 「未来に駒を進めよう」は、就業や消費を大阪府に依存していたこれまでのベッドタウンから、市内で働き、市内で生活し、市内で生活を楽しめるまちへ、次のステージに進みたいという思い、「創生のまち」は、人口減少に転じる中であっても、個性豊かで多様な人材と魅力ある多様な就業機会が創出され、市民のひとり一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営める地域社会を形成していきたいという思い。

①-3『～市民×事業者×行政+共有価値＝ 未来が変わる！～』

（理由） 「市民×事業者×行政+共有価値」は、市民、事業者、行政が協働、協創によりまちづくりに取り組み、互いに共有できる価値を創造することで、公民連携によるまちづくりを進め、「未来が変わる!」は、次世代へ引き継ぐ持続可能なまちへ、生駒の未来を変えていこうという思い。

### 2. 新しい将来都市像（前回全体会で支持があったもの）

②『助けあう やさしいまち・生駒』

（理由） まちづくりの目標のイメージが沸かきやすいシンプルな方がよいと思います。第6次は、一番に人口減少、特に生産年齢人口の減少が懸念されることから、お互いが「自分」だけでなく他者と助け合って、みんなにとって「やさしいまち」であることが求められると考えます。

③『絆で結ぶ共生のまち・生駒』

（理由） 増える高齢者と子供たちとが関わりふれあいの温かさを知りベットタウンだけでなくこのまちでの工業生産を生み出し主婦も社会参加していける都市へ。

④『あなたの暮らしが見つかるまち』

（理由） 少子高齢化が進む中、子どもや高齢者の方も含めて、すべての市民が自分らしい暮らしができるまちになることを目指すという思い。

⑤『彩りあふれる未来へ続く 市民が創る住宅都市』

（理由） 「彩りあふれる未来へ続く」は、多様化するライフスタイルに伴い生駒市に住む一人ひとりが望む様々な暮らし方が実現した未来へ続いていけるよう、「市民が創る」は、市民が主役となって、住みよい住宅都市として未来に続くようまちづくりに取り組んでいくという思い。

### 3. 新しい将来都市像（韻を踏んだもの）

⑥『100年先も つづき つながり つむぐまち』

（理由） 「100年先もつづき」は、人口減少に転じる中であっても、持続可能な都市経営を進め、わたしたちのまちが100年先もあり続け、「つながり つむぐまち」は、市民と市民、市民と行政、企業と行政など多様な主体が連携し、互いに共有できる価値を紡ぎだし、創造することで、新しいカタチの住宅都市を創っていききたいという思い。

(将来都市像 (案) の検討の流れ)

